



平成 28 年 11 月 10 日
海 上 保 安 庁

今後の VTS^{*1}に関する日 ASEAN ワークショップの結果

～VTS 運用技術・知識を共有することの有効性を確認しました～

10 月 26 日から 28 日までの間、ASEAN 諸国において船舶の航行安全対策を所管する関係当局職員を日本に招き、VTS の運用技術の向上及び VTS の運用管制官育成に関するワークショップを開催しました。

本ワークショップでは、参加国の VTS や AIS^{*2} を活用した業務の現状と課題等について議論を行い、各国の VTS 運用能力及び VTS 業務の質の向上に向けて、各国の VTS 運用技術及び知識を共有することが有効であることを確認しました。

1. ワークショップの成果

出席者が、各国における VTS の現状と課題、AIS を活用した業務の現状と課題、及び海難事例とその改善策について発表し、各国の現状を共有したほか、VTS の運用能力の向上に向けた意見交換を行い、次の点について、認識を共有しました。

- ・海難のリスクを減少させるため、VTS 業務を支援するツールを適切に使いこなすことが重要である。
- ・VTS 業務を支援するツールの使用に関する経験を共有することは、VTS 運用官の育成だけでなく、VTS 業務の改善にも有益である。
- ・VTS 海域における海難の原因を研究・分析・共有することは、VTS 業務の改善に向けて重要である。

本ワークショップでは、これらを踏まえ、次のとおり結論を得ました。

- ・実際の VTS 運用技術及び知識を共有することは、各国の VTS 運用能力向上のために有効であり、これを達成するためには、ASEAN 及び日本各国の VTS 当局間における関係構築が有益である。

2. 参加国等

インドネシア、カンボジア、シンガポール、タイ、フィリピン、ベトナム、マレーシア、ミャンマー、ラオスの 9 ヶ国から、船舶の航行安全対策を所管する関係当局職員、計 11 名が参加しました。

- ※1 VTS (Vessel Traffic Services : 船舶通航サービス) は、航行船舶の安全性と効率性の向上等を目的に、レーダー、AIS、VHF 無線電話等を活用し様々な情報を収集したうえで、航行船舶に対し必要な情報提供等を実施する業務です。
- ※2 AIS (Automatic Identification System : 船舶自動識別装置) は、船舶の識別符号、種類、位置、進路、速力、航行状態及びその他安全に関する情報を自動的にVHF帯電波で送受信し、船舶局相互間及び船舶局と陸上の航行援助施設等との間で情報の交換を行うシステムです。



交通部長による開会の挨拶



ワークショップの様様